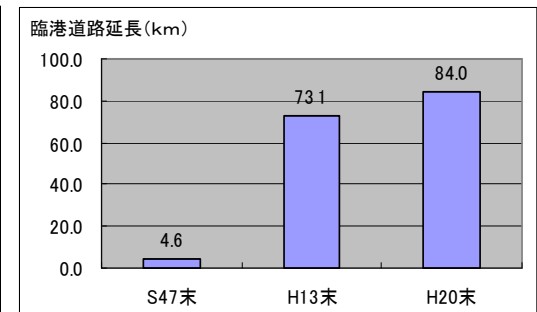
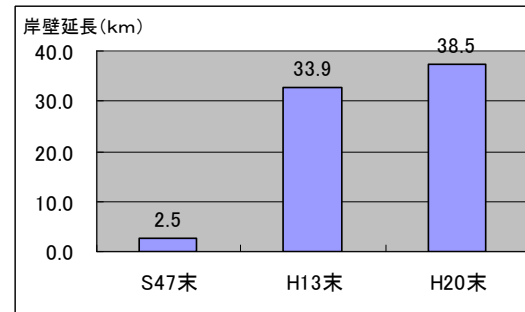


港湾施設の整備状況

島嶼県沖縄においては、生活物資の輸送や住民の移動手段は船舶によるものが大きく、復帰以降、船舶の大型化等に対応した岸壁や物流等の円滑化を図る臨港道路などの港湾施設の整備を進めてきている。



現行計画における取組状況

現行計画において、港湾については、海上交通の安全性・安定性確保、輸送需要の増大、輸送形態の変化に加え、海洋性レクリエーション活動の進展などに適切に対応するとともに、ウォーターフロント空間の形成、防災機能の強化、バリアフリー化等の推進など、産業と生活空間等諸機能が調和した質の高い整備を図ることとしており、現行計画に基づき必要な岸壁等の整備を鋭意進めている。

【現行計画期間内に取り組んでいる主なプロジェクト】

- ・ 那覇港国際コンテナターミナルの整備（コンテナ岸壁2バースはH16年度に供用開始）
- ・ 大型旅客船ターミナルの整備（那覇港（H21.9暫定供用）、石垣港（整備中））
- ・ 多目的国際ターミナルの整備（平良港（H20.5供用）、中城湾港（整備中））
- ・ 那覇港臨港道路空港線（那覇港～那覇空港間の沈埋トンネル）の整備（整備中）



今後の課題

現在整備中の事業については、その事業効果の早期発現に向けて鋭意推進を図る必要がある。また、新たな事業については、沖縄県の自立的発展に寄与する施設整備等について、必要性・有効性から選択と集中を行い取り組みを進める。

【今後取り組むべき課題例】

- ・ リーディング産業である観光産業への支援（大型旅客船バースの整備、人工海浜等港湾緑地の整備など）
- ・ より効率的・効果的な物流体系の構築に資する港湾整備（輸送コストの軽減に資する岸壁整備、大規模地震発生時に生活や経済活動の維持に必要な耐震強化岸壁の整備など）
- ・ 住民及び観光客の安全・安心の確保（航路及び防波堤等の整備など）
- ・ 港湾サービスの高度化促進（港湾関連手続きのシングルウィンドウ（統一電子申請窓口）の普及、那覇空港国際貨物基地と港湾が連携した新たな物流システムの展開など）